

第2回 清瀬市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画

策定委員会

■ 議事要旨 ■

件名 第2回 清瀬市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画
策定委員会

事務局 福祉子ども部 障害福祉課障害福祉係

開催場所 清瀬市役所2階 市民協働ルーム

日時 令和5年7月24日(月) 午後2時～4時

出席者 委員8名

岩澤 寿美子、熊谷 大、富永 健太郎、友田 邦治、贄川 信幸、
古舘 秀樹、松崎 功、吉田 真依子(五十音順、敬称略)

欠席者 齋藤 靖之、長嶋 潤(五十音順、敬称略)

会議次第

- 1 計画の全体構成
- 2 第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の数値目標の達成状況報告
- 3 市民ヒアリングの実施計画
- 4 その他

審議経過

1 計画の全体構成

事務局より、計画の全体構成について計画目次（案）に沿って説明

【協議内容】

委員長	基本的には現計画の構成と同様の位置付けということである。1部の第2章で項目の入れ替えがなされているため説明をお願いする。
事務局	全体の仕組みがあり、それに対して予算がつき、サービスを提供しているという流れで記載をしている。
副委員長	現計画と変わるところはどこか。
事務局	構成としては大きな変更はない。中身について、特に具体的な数値目標は、改めて国の指針と市の現況を見ながら作っていくので、内容が刷新される。
委員長	「計画策定に関する1つの視点」という資料を用意した。私が専門としているプログラム評価の観点から、この考え方を念頭に策定してはどうかという提案である。プログラム評価と計画策定が全くイコールではないが、解決すべき課題に対して、根拠を持って計画策定をおこないたいと考えている。
事務局	国の基本指針に関しては、必須のこともあるが、それ以外の記載や計画の構成については柔軟に対応させていただきたいと思う。
副委員長	障害者施策の課題は多くあり、真っ直ぐには進まず、人、者、金の微妙なバランスの上に成り立っていると思う。最優先だけれど予算も人も不足して手が出せないということもあると思う。そのような状況でも、プログラム評価は有効なのか。
委員長	個別支援におけるニーズ評価で、課題となったものすべてを本委員会で検討して対応していくことは難しい。まずはニーズの優先順位を検討するというのが一つの考えである。優先順位を検討したうえで、例えば今期は何を重点的に行うかという検討をしてはどうか。清瀬市長から諮問を受けて取り組んでいる計画策定委員会であるので、必要なものにおいてはこちらから答申をし、何らかの形で清瀬市の予算配分等も含め、検討していただくことが一つ考えとしてあると思われる。本委員会で答申したものすべてが具現可能かはわからないが、われわれ委員が検討し、市長に答申することで、これを市が検討することになると考える。
副委員長	計画策定委員会で必要だとなった場合、そこに予算をつけるような議論をしていただける可能性はあるのか。
事務局	十分に考えられる。ただし、予算計上の時期については、早くて再来年の予算に反映する形が予想される。
委員長	そのためにもこちらでは課題や取り組み方の根拠、ニーズ調査等々を踏まえてあげていく必要があると思う。次期計画初年度ですぐに動き出せるものと

	<p>そうでないものとはあると思うが、なんとなく作りませんでしたではなく、ちゃんと意義のある計画を作り、それが市の動きにも反映できるものにしていきたいという思いである。</p>
委員	<p>おっしゃるとおりと思う。</p>
委員	<p>個人的には良いと思う。時間と予算と事務局の力次第でもあるだろう。</p>
委員	<p>ニーズ評価は当事者の場合もあるが、社会やわれわれ外部の関係機関、保護者であったり、施設に入ってらっしゃる方もいたりすると思うが、今回のニーズ評価は昨年アンケート調査をした障害者手帳を持っている方がメインになるのか。</p>
委員長	<p>プログラム評価では利害関係者の特定というのがあり、解決しなければならない課題にまつわる関係者、つまり当事者、家族、職員等である。例えば本人が「在宅」といったときに家族やそれに対応しようとする施設等の職員の現状も考える必要があり、本人が「こうしたい」、「これが課題だ」というだけですべてのニーズを把握したというわけにはいかない。本人の希望を叶えることが本来は望ましいが、実際の取り巻く環境も含めて、総合的に考えていくというのが一つの考え方である。</p>
委員	<p>昨年のアンケートは手帳所持者だけであるが、その他のニーズ調査はどうおこなうのか。調査できると良いと思うが、影響するすべてというのは難しいとも思う。</p>
委員長	<p>昨年中にアンケート調査を終えているが、今後市民ヒアリング調査も予定しているので、当事者に一步踏み込んで聞く等を検討していきたい。</p>
委員長	<p>個別のニーズアセスメントが不十分だと、どんなに素敵なプランを作っても、ふたを開けてみないとわからないことになる。こういう状況だからこれを目指し、これを進めようという説明ができるものになりたいと思う。</p>
副委員長	<p>ちゃんとした調査を基にして計画策定に臨むという考えは良いと思う。</p>
委員	<p>長く障害者の入所施設で働いているが、国や市の目標のトップに入所者を減らすことが出てくる。施設入所から地域生活へ移行しても継続が難しいこともある。部分的には地域生活へ移行できても、一方で施設入所を希望する方もいる。例えば、障害者の高齢化やご家族の高齢化等で通所では難しくなることもある。東京都の目標を見ると50年くらい前から変化がなく地域生活移行が進んでいないように見えるが、一方では地域で独立して暮らす障害者が増えているとも思う。数値目標が、いくつかの指標と関連していることが見える形になると、狭い範囲ではなく地域の中で、あるいは清瀬市を離れてでも、相互に関連しながら政策が進んでいく実感をより持てると思われる。</p>
委員長	<p>国の指針にも根拠はあるが、清瀬市の現状を踏まえて清瀬市の数値目標を立てることがあっても良いが、その際に根拠は必要だと思う。この3年間でどうしていくのか、できるだけ地域へ、施設から在宅へという流れがある一方で、入所ニーズもある現状を見て、何だったらどこまでできるのか、親亡き後</p>

	の問題や家族の高齢化等によって、自宅では難しい方が入所しかないのでかというところも含めて、本来であれば中長期的に考えていく必要があると思う。施設入所者の地域移行目標を踏まえつつ、清瀬市としてどうしていくか、なぜ減らせないのか、なぜ清瀬市はこの数値目標を打ち立てるのかということの説明できれば良いと思う。
副委員長	現計画策定時には、国の目標値はあったが、清瀬市は実情に合わせて、親亡き後も踏まえて、「施設入所者削減数ゼロ」を目標とした。国の指針に沿わなくても大丈夫だが、地域とのかかわりとしてグループホームへの移行を充実させていく等、清瀬市の考えを見せることは必要だと思う。
事務局	おっしゃるとおり、本市において入所者を減らすことは難しいと考え、現計画では「施設入所者削減数、プラスマイナスゼロ」という、地域の実情に合わせた計画とした。
委員長	このあたりも分析等できると良い。逆に減らせている自治体はあるのか、そこはどうしているのか、全国的な傾向や似たようなところがあるかなどわかると良いと思う。また、今までは親や家族がみていたけれども、それが難しくなったことや、支援の担い手の高齢化による様々な困難等はあるかと思うが、「難しいから変えない」というのが良いか検討していく必要があると思われる。
委員	策定委員会は本日含めて4回なので、どこまで掘り下げられるかわからないが、しっかりと当事者が生活しやすい計画ができれば良いと思う。
委員	昨年のアンケート調査も大事だが、ホームページへの市民の反応や施設でも声を拾う場面があると思う。そういったものもニーズの一つと思うので、検討材料とすることはできないのか。
事務局	国から調査方法について何種類か示されているが、基本的には障害者等のサービス見込み量を検討するための調査であり、昨年実施した調査は当事者のニーズを把握する調査であると考えている。また、3年ごとに市全体の世論調査を実施しており、今年度調査年度である。障害に関する質問は少ないが参考にはできる。
委員	調査は目的外の使用が認められないので、その点は注意したほうが良い。例えば、問題行動調査という不登校等に関する調査を自治体と学校が実施して文部科学省に提出するが、調査結果を学校等が使用することはできない。
委員長	公表された調査結果を活用することは問題がないが、公表されていないもしくは公表前に使用することはできないと承知している。
副委員長	調査目的によって回答が変わることも考えられるだろう。
委員長	調査目的を知って回答が変わることは考えられるが、公表されている結果の引用であれば問題ないだろう。目的外使用にならない範囲で、市民意見を参照することは良いと考える。
委員	プログラム評価の視点があると、時間、予算、人には制限があるからこそ、数

	<p>値目標に対する具体的な活動方法をみなさまとイメージ共有でき、活動も共有できるということにつながるのだと思った。具体的な活動やイメージを共有することができれば、みんなで実感ができるということにつながっていくと思う。初めは一気に導入すると、とまどいもあるかもしれないが、段階的に導入していくことで、目標活動内容が明記される。次はその評価がおこなわれることにより、今回はどのような目標にするのか、この取り組みのアップデートに対する根拠となり、少しずつこの視点を取り入れられていくことで、余計な力をかけなくて済むと思う。</p>
委員長	<p>みなさんの意見を踏まえながら、現実的に可能な範囲で重点的な取り組みを検討していきたいと考えている。示されている計画目次(案)をベースにして必要に応じて追加や変更を話し合っていきたい。</p>
委員	<p>今後、数値目標等具体的な活動内容として図れないということか。</p>
事務局	<p>今回だけで議論が終わるとは思えないので、今後の委員会の中でもより良い計画になるよう変更していくのが良いと考える。</p>
副委員長	<p>今後、計画を検討する中で、この視点も生かせるという場面では盛り込んでいくことがみんなの合意のもとできると良いと思う。</p>
委員長	<p>この視点も加味しながら、場合によっては計画の加除等も含めて考えていきたいと思う。</p>

2 第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の数値目標の達成状況報告

事務局より、現況と課題の追加報告及び第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の数値目標の達成状況について説明

【協議内容】

副委員長	<p>「障害のある方をささえる清瀬市のしくみ」が概念図であれば、事業所名は記載しなくて良いと思う。情報マップであれば、一部の事業所名だけ書かれているのは「なぜここだけ書くのか」という疑問になる。何を示す図なのか明確にして、記載内容を整理する必要があると思う。</p> <p>「施設入所者削減数ゼロ」という目標について、新型コロナの感染症の影響や、親亡き後というのがかなり重要で、そこを踏まえてご本人の生活の安定を維持し、継続することを優先しようという、清瀬市の実情に基づいてそれを実現しようという決定の表れだった。どこの自治体もだが、清瀬市の場合も計画相談が厳しい状況で、地域移行を実現するには計画相談、相談支援専門員を充実させなくては行けないが、そこが望めないという現状がある。計画相談や基本相談をスーパーバイズやアドバイスしてくれるような基幹相談支援センターの存在が必要である。これをセットで考えなくてはならないが、そこに手を付けられていない現状から「ゼロでやむを得ない」という結論に至ったのだと思う。背景があり、考えた末の決定だったということである。計</p>
------	---

	<p>画相談を担う事業所の量的な整備や、それを質的にどう担保していくかが課題である。また、スキルアップ、スーパーバイズ等の質の充実や、一人で抱え込むような一人体制のところも当然多くなってくるので、そのバックアップも必要になってくる。地域移行を進めるにはこれらが重要だと考える。</p>
委員長	<p>プログラム評価には、総括的評価と形成的評価という二つの評価がある。総括的評価は、結果できたのかできなかったのかという最後におこなう評価である。形成的評価は、より良くしていくための方法を検討する材料を提供する評価である。6期計画だけで考えると、結果どうだったのかという総括的評価になるが、7期計画につながるものと考え、達成できた要因や達成できなかった課題や理由をちゃんと分析する必要がある。コロナは未知数なところが多いが、背景や結果を見て理由を検証する。結果の解釈ということを本当は盛り込む必要があると思っている。それを受けて、6期計画はここまでだったが、7期計画はどこから着手するか、さらに何を推進すればいいのか、そういう議論ができると良いと思う。</p> <p>人的資源の課題というのはあると思うが、障害者支援の担い手の高齢化により、施設入所のニーズがあるという話があったが、ほかにどういう手段があり得るのか。施設入所以外に支えていくことは可能なのか。</p>
副委員長	<p>グループホームがあげられる。</p>
委員	<p>「障害のある方をささえる清瀬市のしくみ」を白黒印刷すると本人・家族が見えづらくなる。背景の色の濃さを変えたり、本人・家族をより中心にすえて書いたりといったところに配慮する必要があると思う。また、概念図だとしたら一部の事業所だけを載せるようなことはしないほうが良いと思う。</p> <p>目標の達成状況については、国の指針を前面に出すのではなく、国の指針を前提にしつつも、清瀬市としての目標を定めたという説明のほうが、一般の読み手がわかりやすいと思う。</p>
委員長	<p>外に出す文書なので、わかりやすさも重要だと思う。</p>
委員長	<p>「障害のある方をささえる清瀬市のしくみ」については、議題4で検討を予定している「サービス整備状況マップ」に、事業所名が書いてあったりなかったりするが、作成時はどのような意図で一部の事業所名を記載することになったのか。</p>
副委員長	<p>現計画時よりも前から該当資料があり、事業所名の記載については論じられていなかった。</p>
事務局	<p>今回、記載内容も検討し整理していきたいと思う。</p>
委員	<p>目標達成状況の福祉施設から一般就労への移行について、「就労継続支援B型事業から一般就労への移行者実績が1人」となっているが、このデータはどのように把握したのか。B型事業所にアンケートをしたわけではないと思うので、実態把握ができていないのではないのか。実際には実績はもっと多いのではないのか。</p>

事務局	サービスを利用する受給者証を就職や就労により廃止した件数を数えている。
委員	例えば、精神障害者が就職しても、しばらくはB型事業所に通いながら様子を見ていく場合もある。清瀬市はそのことを認めている。国も認める指針を出したと思う。そういう理由で、就職しても受給者証を返していない場合がある。実績はもっと多いかもしれない。
委員長	過小評価をしている可能性があるということか。取り組みにより改善されているなら評価できると良い。測定の信頼性も含め再度実態把握をしたほうが良い。
委員	B型事業所は少ないので、アンケートで確認するのはどうか。
事務局	算定の根拠と数値に誤りがないか再度確認する。
副委員長	実績値が変わると目標値も変わるのか。
事務局	基準となる令和元年度の実績をもとに、国の指針と本市の状況から目標値を設定した。
委員長	清瀬市が主体的に検討し目標を設定したことがわかるように記載できると良いと思う。
委員	「障害のある方をささえる清瀬市のしくみ」に記載されている事業所名を見ると、半官半民で運営しているところが記載されているように見える。利用者からすると運営主体は関係なく、すべてリソースなので運営主体でわかる必要はないと思う。また、ユニバーサルデザインも意識して、パッと絵を見てわかるような工夫があると良い。
委員長	概念図として事業所名は省略し、わかりやすく整えていただきたい。
事務局	次回委員会では別の議題も予定しているので、このことについては修正し、でき次第、委員のみなさまにメールでお送りする。ご指摘があれば、都度ご連絡をいただけたらと思う。

3 市民ヒアリングの実施計画

事務局より、現計画時のヒアリング状況を参考に議題を提案

【協議内容】

委員長	「ここはぜひ聞いたほうが良い」や「こういうことを聞いたほうが良い」というヒアリングへの要望はあるか。
事務局	これまでは、アンケート調査だけではわからない、障害をお持ちの方の普段の生活等をコラムとして載せてきた。一般の方がこの計画を見たときに、障害について理解を深めることができ、計画の堅苦しさをとる役割もあった。
委員長	当事者の姿を、コラム等をとおして具体的に示すということも良いと思うが、一方でプログラム評価の観点で回答の選択理由等、当事者の悩みを聞いて少しでも計画に反映するためのインタビュー調査も必要だと思っている。

副委員長	コラムであれば聞いた方の一つの意見として記載できるが、市全体の方向性を議論するための聴取だとすると、例えば地域移行推進という一方の価値を重視した聞き方はできず、聴取が難しいと思う。
委員長	ニーズを明らかにするためには、課題の把握も重要であり、掘り下げて質問できると良いと思う。
委員	リサーチなのか実情をコラムとして載せるのか、整理したほうが良いと思う。
委員長	計画のためのヒアリングが必要だと考える。
副委員長	現計画のヒアリング時には、計画のためのヒアリングという意識はなかった。計画やデータだけでは味気なく、あたたかさに欠けるため、当事者の姿を紹介することでイメージアップを図り、コラムとして記載した。計画のためのヒアリングも大事だと思う。
委員	本件の調査は、課題の掘り起こしのため調査だと思っていた。
委員	ニーズ調査も良いと思う、一方でコラムも良いと思う。コラムは「ヒアリング」という名前から変えて、明るい話題提供として残せると良いと思う。
副委員長	ニーズを聞いたら、その対応を検討しなければならない。対応しきれない量や難易度のニーズが出てきた場合、その先を考えることが難しくなると思う。
委員	アンケート調査では把握が難しい、当事者の方の生活スタイルや困りごとを丁寧に伺うためのヒアリング調査があると良いと思う。また、対応が難しくてもニーズを知ることは必要だと思う。
副委員長	例えば重症筋無力症等の難病の方は、計画策定でも見えてこないような、治療が困難な現状やそのような人たちに光が当たることは必要だと思う。
委員	見えていない意見を拾うことは大事だと思う。例えば、避難行動要支援者制度を知らない方になぜ知らないのかを聞くことや、どこで情報を得ているのか、どのような充実を望むのかを聞くことは良いと思う。ただし、あまり深く掘り下げてしまうことは違うように思う。
委員長	第1回策定委員会でも話題になった情報弱者について、現状や理由を把握して改善に取り組む、改善することで利用が増える、ということはあると思われる。
委員	アンケート調査では、「現在利用しているサービスがない方が64.5%」となっており、多いと感じた。そのため、これらの人は本当にサービスの必要性はないのかと感じている。障害当事者の方々にこれに対する意見を伺うのもよいと思う。
委員長	利用サービスがない理由や本当のニーズを聞き出せると良いと思う。
副委員長	リテラシーの問題で福祉はハードルが高いと思う。また、サービスに対して自分は関係ないと、つながってこない人たちがいる難しさがある。
委員長	逆に、サービスにつながっている方へ、どのようにしてつながったのか聞くことができるかもしれない。

委員	アンケート調査では、「地域福祉権利擁護事業を知らない方が67%」となっているが、コラムで事業を紹介すると知ってもらう機会になる。コラムにはそのような情報を載せても良いと思う。また、「現在利用しているサービスがない方が64.5%」も割合が大きい。この人たちが要望するサービスをヒアリングで聞き出せると変わっていくのではないかと思う。
委員長	完璧ではなくても、具体的な声を拾えるヒアリングができると良いという意見が多いように思う。対象者や質問を整理してみなさんに示せるようにする。
副委員長	これまでのようなコラムは廃止するのか。
委員長	ニーズを鮮明にするためのヒアリングと当事者の姿を発信するコラムの2つがあると良いと思う。
事務局	ニーズを把握しつつコラム要素を残した、合体のようなものを作るとのことか。
委員長	その二つはわけて載せるのが良いと思う。今後の方向性に具体的な視点をもたらすようなニーズの把握ができると良い。早速、計画の構成に影響するが、「1部第2章清瀬市の障害のある方の現況と課題」でヒアリング調査の項目を別立てして書くと良いと思う。
事務局	コラムとニーズ把握を同一人物に聞くということか。
副委員長	同一人物ではないほうが良い。同時に違う目的のことを聞かれると混乱すると思われる。
委員長	結果、同じ方に聞くことはあっても、目的が違うので対象は違ってくるだろう。
副委員長	ヒアリング調査のための予算の計上をしているか。
事務局	計画策定の一部と考え、ヒアリング調査だけの予算ではない。
委員長	調査実施の方法も含め検討して整理する。

4 その他

事務局より、サービス整備状況マップについて説明

【協議内容】

委員長	先の「障害のある方をささえる清瀬市のしくみ」と同様、位置付けの整理が必要と思う。
事務局	細かい話になるが、清瀬喜望園で知的障害の内部障害者も受け入れているか。
委員	清瀬喜望園では、今後は東京都枠を活用して医療ケアの必要な重度身体障害者の受け入れをおこなっていく。現在入所されている方に関してはそのまま入所を継続するが、今後は医療ケアが必要な重度身体障害者を対象とする。
事務局	マップに入所施設を記載し続ける場合、知的障害者は削除したほうが良いか。
委員	今後に関しては削除したほうが良い。
委員長	サービス整備状況マップとしては、地域ごとに施設が可視化されているのは

	良いと思うが、各事業所に内容に誤りがないかの確認が必要である。清瀬市が運営している事業所だけを載せるのか、清瀬市にある施設すべてを載せるのかは整理が必要である。
委員	清瀬市にある資源については、網羅的に書いたほうが利用者としてはすごくありがたいと思う。
副委員長	「障害のある方をささえる清瀬市のしくみ」と「サービス整備状況マップ」の違いを明確にする必要がある。情報マップだとしたら、全部載せる必要があると思う。
委員長	名称の問題もあると思う。清瀬市が整備している施設のマップなのか、利用者目線で資源のマップなのか、マップの性格と誰に対する情報なのかを整理する。
事務局	具体的にサービスの種類や場所を記載しているのはイメージがしやすいと思うが、市民目線に立つと全事業所が載っているほうが良いと思う。その場合はマップではなく、事業所名・住所・電話番号のような形になるかもしれない。それを計画に載せるべきかについては、ご意見いただきたい。
副委員長	マップに事業所名もすべて載せるのは収まらないのか。
事務局	A3サイズの地図には収まらない。事業所名を省略してサービスの種類だけ記載するなら収まるだろう。
委員長	他自治体では電話帳みたいな情報を載せることもあるのか。
事務局	資料編に障害者関連施設の一覧表が載っていることはある。
副委員長	施設の中身が一律ではないので、そこを書かないと記載する意味が薄れる。
委員長	市民向けに施設の一覧を記載したものはあるか。
事務局	施設一覧の冊子がある。別途冊子があるので、ここではサービスの整備状況をマップ上に示すのみとして、区別をつけるのはいかがか。地図で示すところに清瀬市の色があり、地域にきちんと施設があることもわかって良いと考える。
委員長	「サービス整備状況マップ」として、どのような施設がどこにあるかがわかるマップとすることで良いか。「障害のある方をささえる清瀬市のしくみ」はサービスを紹介し、「サービス整備状況マップ」は地域に分散配置されていることを示し区別したい。
委員	施設一覧の冊子があるなら、どこに行くとそれをもらえるのかコラム等で書き添えると良いと思う。
委員長	計画は計画だけれども、これを市民が取ったときに、情報もわかるようなコラム等を工夫できると良い。
副委員長	あらゆる人、障害に関わる人が見て、納得できるようなものにしたい。そこを目指したほうが良いと思う。
委員長	記載内容について、事務局とも相談のうえ整理する。もしかすると委員のみ

なさまにも一言コメント等をお願いするかもしれない。

事務局より、第1回委員会で紹介した厚労省の指針が令和5年5月19日に告示された旨を補足で説明。

次回委員会は令和5年8月21日、市役所3階会議室3-1にて開催する。

閉会